

お盆を過ぎても暑い日が続くようです。

現在会員登録数 4,471 人さま。次号は 9 月 20 日発行の予定です／

+-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----+

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

《5》宮川健郎 私の出会った児童文学者たち

《6》富安陽子 腕だめし STORY COMPE. 2025

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

+-----+

【1】お知らせ

● オンライン講座「2024年に出版された子どもの本から（録画配信）」

申し込み受付中！ 講師：土居安子（IICLO 総括専門員）

◇配信期間：8月8日（金）～12月15日（月） 視聴料 1000 円

※お申し込みは Peatix から <https://2024kodomonohon-2.peatix.com/>

● 「第159回日本児童文学学会 関西例会」

講演「新美南吉とセンス・オブ・ワンダー」

講師：遠山光嗣さん（新美南吉記念館館長）

日時：9月13日（土）13：00～16：30（研究発表を含む）

会場：大阪府立中央図書館 大会議室 定員：60人 参加費：無料

主催：日本児童文学学会 関西例会 （IICLO 共催）

※お申し込み、詳細は→ <https://peatix.com/event/4525753/>

● «ご寄付をお願いします» 当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。

※詳細は → [http://www.iiclo.or.jp/donation\\_10th.html](http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html)

※Syncable（シンカブル）＝継続寄付（毎年／毎月）、単発寄付が選べます。

→ <https://syncable.biz/associate/19800701>

● YouTube 版「本の海大冒険」 <https://www.youtube.com/@iiclol196>

※公開内容一覧は → [http://www.iiclo.or.jp/ml\\_youtube/index.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_youtube/index.html)

● Instagram 随時更新 [https://www.instagram.com/iiclo\\_official/](https://www.instagram.com/iiclo_official/)

● X（旧 Twitter）毎日更新 [https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News)

【2】コラム

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Satoko's Talk

\*\*\*\*\*

『オーサム！国語塾』 清水晴木/作 いつか/絵 岩崎書店 2025年7月  
対象年齢：小学校高学年以上

\* 今回のゲストは当財団特別専門員小松聡子さん（S）です。

あらすじ：国語塾の塾長の今井先生が、小学6年生で意思表示が苦手な湊、クラスメイトに想いを伝えるためにラブレターを書きたい小春、クラスの輪の中にいない転校生の気持ちを理解したい凧、いつも脇役で主人公に憧れている碧に、国語の文章の読み方を使ってアドバイスする連作集。今井先生も小説家の夢をあきらめかけていたが、子どもたちと出会うことで、再度小説に挑戦する。

Y：子どもたちが、国語の文章を読む技を使って自分の生き方や言葉のありよう、ものの考え方を少しだけバージョンアップさせることで生きやすくなるということがユーモラスに描かれていると思って読みました。

S：第一話「主題をとらえる」、第二話「説明文のしくみ」など、それぞれのタイトルが読者の興味をそそります。

Y：この本を通して国語っておもしろい。国語って自分の毎日と関係があるんだって思ってくれたらいいなと思いました。

S：思っていることを伝えるのが苦手で、反対の意思表示ができずに、いつも相手にあわせてしまう湊は、国語の問題を読んでも頭がこんがらがってしまうという悩みを塾長に相談します。

Y：読むのがしんどい時って、文章が頭に入らず、上滑りになってしまい、「読めない」って思う感じがよくでています。

S：そんな時、塾長は「主題のとらえ方」を教えた上で、彼の心の奥にある本当の悩みをキャッチして、他人の話を聞いているときも、何を言いたいのかをとらえることが大事だし、自分の気持ちを話すときも、言いたいことをまとめて伝えることが大切だとアドバイスをしてくれます。

Y：ここを読んだ時、「なるほど。そう思って人の話を聞くだけで違うんだ」と思いました。

S：湊はそのアドバイスを日々の生活でも実践して、最後は両親にちゃんと自分の意見を言えるようになります。

Y：ちょっとできすぎというところはありませんでしたが、言いたいことをはっきり言うことが問題の解決につながるということが伝わります。

S：他の章でも、それぞれの登場人物が変化して成長していく姿がテンポよく書かれていて、さわやかな印象が残ります。ただ、人の話をしっかり聞くのも、自分が伝えたいことをちゃんと伝えるのも、結構難しくて、私も日々苦労しています。そういう意味で、もう少し難しさも書かれていてもいいかなとは思いました。

Y：私がちょっとだけ残念に思ったのは、「第四話 物語の主人公とは」で、塾長が漫画の偉人伝を紹介するのですが、「偉人」でなくてもいいのでは？と思ってしまいました。とはいえ、なぜ、伝記を読むのかという塾長の言葉には説得力がありました。

S：塾長は、5人目の主人公に「君が言いたいことをちゃんと伝えられるまで待つよ。君の物語は、君が始めなければいけないからな。」と言います。この言葉は印象に残りました。

Y：私は、塾長の今井先生も子どもに影響されて小説家の夢を再度あきらめない結末がよかったと思いました。また、言葉で人に伝えるのが難しい今、考えを整理して、自分の言葉で人に伝えることの大切さが伝わる作品だと思いました。

\*\*\*\*\*

## 《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

### 第120回「秋田街道」

#### 心象スケッチへ向かう道

綴じられた状態で残されている短編群だから、「初期短篇綴」と呼ばれるものの1編です。

原子朗著『定本宮澤賢治語彙事典』（2013年）の「秋田街道」の項目には、こうあります。――「盛岡から雫石までは、ほぼ雫石川に沿って西行し、秋田県角館に至る街道。現国道四六号線。途中には賢治作品によく登場する七つ森があり、また小岩井農場（中略）に行くにも途中まで秋田街道を使う。」

『語彙事典』には、つづけて、短編「秋田街道」についても書かれています。――「一九一七（大正六）年七月八日の早朝、同人雑誌「アザリア」の会の第一回小集会のあと、保阪嘉内ら三人と当時盛岡高等農林学校の実習地のあった春木場まで歩いた時（保阪によれば「馬鹿旅行」）のスケッチ。」（カッコ内原文）短編は、こう書き出されます。

〈どれもみんな肥料や薪炭をやりとりするさびしい家だ。街道のところどころちらばって黒い小さいさびしい家だ。それももうみな戸を閉めた。〉

書き手は、夜から明けがた、そして、「冷たい奇麗な朝」までの時間、秋田街道を歩いていく自分たちと、変化していく空も月の光も風景も書きとめていきます。帰り道では、雨がふって、虹が立ち、すっかり晴れて暑くなります。書き出しからすぐには、こうありました。

〈私はふと空いっぱい灰色はがねに大きな床屋のだんだら棒、あのオランダ伝来の葱の薔の形をした店飾りを見る。これも随分たよりないことだ。〉

このくだりと賢治の短歌「夜のそらにふとあらはれてさびしきは、床屋のみせのだんだらの棒」の関わりについては、すでに指摘があります（小沢俊郎「「秋田街道」1966年ほか」。「夜のそらに……」は、『語彙事典』の説明に出て来た雑誌『アザリア』第2輯（1917年7月）に発表された4首の一つですが、短編は、このほか何首もの短歌とモチーフを共有しています。

短編「秋田街道」に、盛岡中学時代から熱心に制作した短歌とわかれて、別の表現へと向かう賢治のありかたを見るのは平尾隆弘です（『宮沢賢治』1978年）。短編には、「向こうの方は小岩井農場だ。」の1行もありますが、変化していく風景を書きとめていく、この短編は、のちの「小岩井農場」（「わたくしはずいぶんすばやく汽車からおりた／そのために雲がぎらつとひかつたくらゐだ……」）などの方法につながっています。

「小岩井農場」を収録した『春と修羅』を、賢治は、詩集ではなく、心象スケッチとしましたけれども、心象スケッチに向かう短編「秋田街道」は、ときどき行空けのある散文、あるいは、散文詩として成立したのです。（馬車別当）

（本文の引用は、筑摩書房版『宮沢賢治コレクション3 よだかの星』によりました。）

\*\*\*\*\*

### 《3》子どもの本の珠玉のことば 74

\*\*\*\*\*

「二十年以上もたってるのに、おくびょうすぎるとは思うわ。でも、二十年もたっているからこそ、よけい……いまさら、放射能によるなんとか症なんて病気、さがし出されたくないもの……運が強いとか健康だとか、かあさん自慢してたでしょ？あれはほんとういうと強がり。自信があったわけじゃないの。どっちかという、おそれてる気持ちのほうが大きかったのね。みんなそうよ、被爆者なんて火薬だいて生きてるようなもんだから。」

かあさんらしくない、すこしなげやらないいいかただった。

（『二年2組はヒヨコのクラス』 山下夕美子/著 長新太/絵 理論社 1968年4月 p.32）

戦後八十年の今年の夏に、過去の戦争児童文学と言われる作品を紹介したいと思って選びました。広島で入院している先輩を思って東京から広島の中学校に赴任してきた山田ひな子先生、あだ名はヒヨコ先生のクラスの6人の子どもと先生とのかかわりが描かれた作品です。「一話 だけど数学はきらいだ 山下和雄の話」のように、章ごとに生徒の名前が入っています。

引用は一話からで、この章は、数学が嫌いな和雄が、担任になった山田先生が数学の教員だと知って、＜よし、どうせすかれないんなら、こっちからさきにきらってやれ！＞（p. 9）と思うところから始まります。そんな中、和雄は、数学の授業中に呼び出され、緊急手術をした母親の病院に向かいます。母親は盲腸を切ったことになっていて、母はそれを信じていますが、実はガンで「ながくても三か月ぐらい」と宣告を受け、和雄は父からその事実を知らされます。そういう状況で、かあさんがベッドの上から、和雄と和雄の姉に言ったことばが引用の部分です。

作品全体は現代の視点で読むと、男女の描き方や差別や偏見にかかわる言葉の使われ方に違和感を抱く部分もありますが、二話「ひろしまのオデット」は、バレエで原爆を題材にした「ひろしまの組曲」を演じる話で、三話「アボジが泣いた」は、父が朝鮮籍から日本国籍になっていたことを知ってショックを受ける少年が級友と朝鮮学校を見学する話で、四話「C P T A」は、P T Aがテストの点数を掲示することを決めたと聞いた生徒たちが、子どもを入れたC（チャイルド）P T Aで話し合うことを提案する話で、五話「あおい車」は、福本さんの父の車が何度もいたずらされてその犯人を捜す話で、犯人は、原爆のとき、おなかにいたことで、障がい者となった少女が青い車に自分のかわいがっていた猫を殺されたことからいたずらするようになったことがわかるという話になっています。

戦後二十年当時の原爆のとらえ方や、社会の問題が中学生に伝わるように率直かつ真摯に書かれていて、大人として今、読むことで考えさせられること、気づくことが多くありました。（Y）

\*\*\*\*\*

### 《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

姫路文学館で9月15日まで開催されている特別展「創刊50周年記念 花とゆめ展 in 姫路」に行ってきました。『花とゆめ』（白泉社）は、昭和49年（1974年）創刊の少女まんが雑誌で、「ガラスの仮面」「スケバン刑事」「パタリロ！」「フルーツバスケット」「花ざかりの君たちへ」など数々の名作を生

み出してきました。この展覧会では、歴代作家 74 名の原画、ラフ、ふろくなど 200 点以上が展示されていました。

展示は、美内すずえの「ガラスの仮面」から始まっています。創刊時（1976 年 1 月号）から掲載されていて、いまだに完結していないこの作品の初期の頃、ドラマチックなストーリーに夢中になったことを思い出しました。

興味深かったのは、仕事場を再現したコーナーでした。デジタルで描く作家である福山リョウコとアナログで描く作家である草凧みずほの仕事場と原画が展示されていて、その違いがよくわかりました。このコーナーを見たことで、他の作家の原画も、アナログかデジタルかを見分けることができ、デジタルの美しさはあるものの、色合いなど、手描きならではのよさを再確認しました。

また、大きな金色のパタリロ像の前に、「パタリロ！おみくじ」があり、アニメーションで流行った「だれが殺したクックロビン」の歌が流れていました。1970 年代後半～80 年代前半のナンセンスなギャグを楽しむ雰囲気漂っており、懐かしい気持ちになりました。

その前には、「押しシェアボード」があって、来場者がそれぞれにメッセージカードに絵やことばをかくことができます。たくさんの方がメッセージや絵を寄せていて、『花とゆめ』読者が、作品を読み、それを写して楽しんだ少女時代を送ったことが伝わってきて、『花とゆめ』愛を感じました。

展示されている 74 名の作家の中には、知らない作家も多く、50 年も続いていると、それぞれの時代の読者がいるんだろうなと思いながら展示を見ました。図録には作家のインタビュー記事などもあり、知らなかった作品を読んでみたいと思いました。（K）

姫路文学館 <http://www.himejibungakukan.jp/>

\*\*\*\*\*

《5》 宮川健郎 私の出会った児童文学者たち 第22回

\*\*\*\*\*

第5章 古田足日先生

その3 社会にひらく「散文」（上の後半）

昨年（2024 年）は、古田足日・田畑精一の絵本『おいしいのぼうけん』（童心社 1974 年）の刊行 50 周年でした。私が古田足日先生（1927～2014 年）に出会ったのは、『おいしいのぼうけん』が刊行された、つぎの年。私は 19 歳でした。

この連載では、「思い出話」を語るだけではなく、私の出会った児童文学作家や評論家の仕事に対する考察や、さらには、そこから、現代児童文学史のとらえ直しを試みます。ご愛読ください。

<本編はこちらから>

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/watashinodeatta.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/watashinodeatta.html)

\*\*\*\*\*

《6》 富安陽子 腕だめし STORY COMPE. 2025

\*\*\*\*\*

「日産 童話と絵本のグランプリ」の再開を待つ間、童話を「創る場」と、童話を「読む場」を提供したいと考え、「富安陽子 腕だめし STORY COMPE. 2025」を、メールマガジン N0.179（7 月 23 日発行）から始めま

した。

◇創作童話の応募期限：8月31日（日） ※大募集中！

◎ 今回のキーワード……「アイスクリーム」「かばん」

◇投票用作品の発表は、N0.181（来月9月20日発行）で行います。

<詳細、応募方法はこちらをご覧ください>

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/storycompe.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/storycompe.html)

### 【3】全国のイベント紹介

● 塩崎おとぎ紙芝居博物館まつり「贅沢三昧 恐怖の紙芝居」

日時：8月30日（土）16：00～19：00 ※有料、要申し込み

会場：塩崎おとぎ紙芝居博物館〔大阪市〕

口演：三邑会紙芝居師 主催：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

### 【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『オーサム！国語塾』をプレゼントします。ご希望の方は、プレゼント応募フォームから、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ ご応募ください。

応募フォーム⇒ <https://forms.gle/uL2TpNhMEYWJpnQ9A>

締切は9月10日（水）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

### 編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

8月も下旬になると、子どものころの夏休みを思い出します。7月中に宿題をやり終えるぞとの威勢はどこへやら。日記に天気を書き入れるのに新聞を残しておいてもらってぎりぎりに書きました。最近は過去の天気はパソコンで瞬時にでてくるし、読書感想文もAIが書いてくれると思うと羨ましいようにも思いますが、それで失うものを考えると怖い気もします。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/index.html)

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp